



詩人。西宇和郡伊方村(現、伊方町)出身。八幡浜商業学校(現、県立八幡浜高等学校)を卒業する直前に退学して上京するが病気のため帰郷し、療養中の大正9(1920)年、小説「焰をかかぐ」が新聞の懸賞に当選する。同年、『万朝報』のダダイズム(これまでの秩序や常識に対する、否定、攻撃、破壊を大きな特徴とする考え方)に関する記事を読み、強烈な衝撃を受ける。その後、ダダイズムの詩や小説を次々と発表し、大正12(1923)年、辻潤編『ダダイスト新吉の詩』が出版された。著者の特異な詩精神から生まれたこの作品は、当時の詩壇に大きな衝撃を与え、高く評価される。その後、思想的に禅の世界へと傾倒していくが、禅を通して深く突き詰めて考えることから生み出された新吉の詩は、深い宇宙観を宿し、「ゼン・ポエム」として世界に紹介された。振幅の激しい破天荒な生涯の中で、独自の詩の世界を展

開した哲学的詩人であった。

略歴

明治34(1901)年1月28日	西宇和郡伊方村小申浦 <small>こなかうら</small> に、高橋春次郎の子として生まれる。
明治45(1912)年1月	母と死別
大正7(1918)年	八幡浜商業学校の卒業直前に退学し、上京
大正9(1920)年8月15日	『万朝報』のダダイズムの記事を読む。
大正10(1921)年12月	『まくはうり集DAI』を作る。
大正11(1922)年9月	「ダガバジ断言」を『週刊日本』に、「ダダの詩三つ」を『改造』に発表
大正12(1923)年2月	『ダダイスト新吉の詩』を刊行
大正13(1924)年9月	韓国に行き、韓国の詩人と交流をはかる。
昭和2(1927)年8月	西宇和郡八幡浜町(現、八幡浜市)の萬松寺 <small>ばんしょうじ</small> で、足利紫山 <small>あしかがしざん</small> の「無門関」の提唱を3日間拝聴
昭和3(1928)年10月	岐阜県加茂郡伊深村(現、美濃加茂市)の正眼寺での修業中に発病し、郷里で数年間静養
昭和7(1932)年	上京し、禅に傾倒していく。
昭和11(1936)年4月	小説『狂人』を刊行
昭和27(1952)年2月	『高橋新吉詩集』を刊行
昭和40(1965)年7月	自伝『ダガバジジンギザ物語』を刊行
昭和47(1972)年10月	『定本高橋新吉全詩集』を刊行。翌年、これにより芸術選奨文部大臣賞受賞
昭和60(1985)年11月	藤村記念歷程賞受賞
昭和62(1987)年6月5日	86歳で永眠。墓所は宇和島市神田川原の泰平寺

(写真提供：高橋喜久子氏)

〈関連図書〉

- ・『高橋新吉全集 I～IV』 青土社 1982年
- ・小田久郎『現代詩文庫 高橋新吉詩集』 思潮社 1985年
- ・鶴崎博『高橋新吉論』 河出書房新社 1987年
- ・平井謙『高橋新吉研究』 思潮社 1993年
- ・金田弘『高橋新吉 五億年の旅』 春秋社 1998年
- ・『県民メモリアルホール人物探訪 第3集』 愛媛県生涯学習センター 1999年
- ・高橋新吉『ダダイスト新吉の詩』 日本図書センター 2003年
- ・八幡浜市他『高橋新吉の世界展』 八幡浜市他 2005年

〈主な収蔵資料〉…(P227~228, 142~143)

〈ゆかりのある場所〉…(P314, 203~204)